

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01939

研究課題名（和文）会計利益概念の再検討

研究課題名（英文）Reconsidering the concept of income

研究代表者

福井 義高（Fukui, Yoshitaka）

青山学院大学・国際マネジメント研究科・教授

研究者番号：40322987

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の核心をなす「問い」、それは利益とは何であり、如何に測定すべきかであり、具体的には、経済理論に基礎づけられた、新たな操作性ある利益概念を構築することである。現代ファイナンス理論の観点に立てば、投資主体の目的は、多期間フロー系列の最適化であって、一時点でのストック価値最大化ではない。本研究では、こうした観点と統合的な利益概念の構築を進め、無リスクフロー系列をベンチマークとして、変動する割引率の下、多期間フロー系列最適化と統合的かつ操作性ある利益概念構築が理論的に可能であることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

利益概念を検討する際にあたって、従来のもっぱら会計概念間の整合性を念頭に置いた基礎研究とは異なる、動学的最適化の観点から、会計情報の利用者である投資家の観点に立ち、フロー系列のストックに対する概念的先行性を示した。

会計基準設定において、収益費用アプローチと資産負債アプローチが対比される。本研究は前者の后者に対する優位性を示すことで、基準設定のあり方に一定の方向性を示唆している。

研究成果の概要（英文）：The core question of this research is what income is and how it is measured. More concretely, I have tried to construct an operational income concept based on economic theory. From the viewpoint of modern finance theory, the investor's aim is not to maximize the value of the stock, but to construct the optimal multiperiod income flows. In this research, I have tried to construct an income concept consistent with the aforementioned aim, and have shown that such a concept exists.

研究分野：社会科学

キーワード：財務会計

1. 研究開始当初の背景

現実に測定可能な操作性ある利益概念を構築するには、『価値と資本』においてジョン・ヒックスが所得の中心的意味の近似とした「所得 No. 2」を直接観察することできないゆえ、さらなる理論的近似を行わねばならない。にもかかわらず、半世紀以上前にシドニー・アレクサンダーが《variable income》概念を提唱して以来、会計研究においては、ほとんど新たな発展がみられない。日本の会計実務では、2006年に公表された概念フレームワークに基づき、利益認識のあり方がリスクからの解放という考え方で明確化されたものの、利益概念の操作性を念頭に置いた理論的精緻化には、多くの課題が残っている。

2. 研究の目的

本研究の核心をなす「問い」、それは利益とは何か、如何に測定すべきか、であり、具体的な目的は、経済理論に基礎づけられた、新たな操作性ある利益概念を構築することである。まず、斎藤静樹とともにやってきた、理論的・実証的根拠のある利益概念再構築に向けた共同研究の成果をさらに発展させ、割引率が変動するという事実と動学的最適化に基づく資産価格理論の成果を取り入れつつ、会計研究の片隅に追いやられていた利益概念の理論的検討を行うこととした。多期間最適化の観点からいえば、無リスクとはフロー系列が事前に確定していることである。本研究では、無リスクフロー系列をベンチマークとして、変動する割引率の下、多期間フロー系列最適化と整合的かつ操作性ある利益概念が構築できることを示すことを目指した。

そのうえで、利益概念を中心に据えた会計測定と統合理論の融合を目指した。なぜなら、会計システムという枠組みの下で理論的に基礎づけられた利益測定を行うには、利益が個別取引の統合(集計)量であるという視点、すなわち統合理論の知見が欠かせないからである。井尻雄士が指摘するように、統合理論の研究対象は、マイクロシステム、マクロシステム及び統合関数から構成される統合構造であり、統合関数によって、マイクロシステムの要素とマクロシステムの要素が関係づけられる。情報を有するのは両システムであって、統合関数はなんら新たな情報を作り出さない。会計測定においても、マイクロとマクロのシステムをそれぞれ別のものであるのではなく、統合によって両者を結びつけようとすることで、両者を調和させる必要性が生じる。その過程で、多期間動学的最適化に基づく現代ファイナンス理論と整合的かつ操作可能な利益概念をさらに精緻化することを目指した。

3. 研究の方法

本研究においては、その学際的性格からまず方法論的基礎を確立することが不可欠であった。したがって、認識論、マイクロ経済学、資産価格理論など、広い範囲にわたる文献調査を行った。そのうえで、操作可能な利益概念の構築を図った。研究の途上であっても、内外の会計のみならず他分野の研究者からのフィードバックを得るべく、その成果を積極的にワークショップ等で報告し、ワーキングペーパーとして公表した。最終的には、雑誌論文あるいは著書のかたちで成果を公にした。

4. 研究成果

斎藤静樹東京大学名誉教授とともにやってきた、理論的・実証的根拠のある利益概念再構築に向けた共同研究に基づき、割引率が変動するという事実と動学的最適化に基づく資産価格理論の成果を取り入れつつ、無リスクフロー系列をベンチマークとして、変動する割引率の下、多期間フロー系列最適化と整合的かつ操作性ある利益概念を構築することができた。また、この利益概念が、《variable income》と整合性を持った概念であることを示すことができた。さらに、会計測定に関する基礎研究を行い、名目勘定概念の重要性を再認識することができた。

動学的最適化に基づく資産価格理論と整合性を持った、のれん概念とそれに対応した会計認識・測定の有在り方に関して考察を進めた。具体的には、のれんの存在を市場均衡からの乖離がもたらす経営者による裁定行動の結果ととらえたうえで、その一時的性格ゆえ、のれん償却が必要となることを明らかにすることができた。市場均衡からの乖離は、アントレプレナーとしての経営者の現状認識の相違から生じるととらえることで、会計研究における認識論的考察の重要性を再確認することができた。

動学的最適化に基づく資産価格理論と整合性をもち、かつ人間の限定的認識能力に対処しうる会計認識・測定の有在り方について考察を進めた。具体的には、資本コストとコーポレートガバナンスという実務と研究両方の世界で注目されているテーマを通じて、市場経済のバックグラウンドであり半ば無意識のうちに人間行動を規定する、第二の自然となった「たかが会計」の重要性を明らかにした。

高橋美穂子法政大学教授の協力を得て、会計測定をめぐる議論にも影響を与えている時系列データの平均回帰現象について、理論的・実証的観点から批判的に検討した。

データの定常性と投資家の合理的期待形成という実証研究の基本的仮定を再検討することを

通じて、会計測定と資産評価モデルの密接な関係を明らかにすることができた。また、現実の問題への応用に関して、鉄道を例に、会計測定が公共政策に及ぼす影響などを書籍にまとめることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 福井義高、高橋美穂子 | 4. 巻 75 |
| 2. 論文標題 平均回帰 経済的実質なき統計的必然 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 97-103 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 福井義高、山下奨、首藤洋志、高井駿 | 4. 巻 74 |
| 2. 論文標題 日本の会計研究者よ、大志を抱け 理論研究に未来はあるか | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 1377-1392 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 74 |
| 2. 論文標題 第2回『企業会計』カンファレンス開催記 副編集長コメント（総括） 投稿も頼みますよ | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 1118-1119 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 斎藤静樹、福井義高 | 4. 巻 201 |
| 2. 論文標題 のれんの会計認識と経済分析（一） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 會計 | 6. 最初と最後の頁 311-322 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 斎藤静樹、福井義高 | 4. 巻 201 |
| 2. 論文標題 のれんの会計認識と経済分析(二) | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 會計 | 6. 最初と最後の頁 369-380 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 北野一、福井義高 | 4. 巻 74 |
| 2. 論文標題 改革論議の耐えられない軽さ | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 41-53 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 73 |
| 2. 論文標題 書評：会計利益の基礎概念(浅見裕子著) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 1432 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 73 |
| 2. 論文標題 This time is different... かな | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 64-65 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 68 |
| 2. 論文標題 T.REVIEW：物価と金融政策を動かすのは税金 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 税務弘報 | 6. 最初と最後の頁 2-3 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 報われないリスク | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 977-981 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 地獄への道はハイリターン投資で敷き詰められている | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 「企業の資本コスト」というまぼろし | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 1097-1102 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 地獄への道はハイリターン投資で敷き詰められている | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 1241-1247 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 機能しなくなった貨幣配給システム | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 1537-1541 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 白いタピオカ (準備預金) と黒いタピオカ (国債) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 1689-1693 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 リブラなんか恐くない | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 115-119 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 銀行預金の今そこにある危機 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 263-267 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 本当の電子マネーは準備預金だ | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 411-414 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 ナローバンクの実現可能性 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 560-565 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 ゼロ金利はナローバンクの敵 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 667-672 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Saito Shizuki、Fukui Yoshitaka | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 Whither the Concept of Income? | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Accounting, Economics, and Law: A Convivium | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/ael-2016-0013 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Fukui Yoshitaka, Saito Shizuki | 4. 巻 印刷中 |
| 2. 論文標題 On Understanding Mattessich and Ijiri: A Study of Accounting Thought by Nohora Garc?a | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Accounting, Economics, and Law: A Convivium | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/ael-2018-0026 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 無益で不確かな割引現在価値情報 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 69-75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 70 |
| 2. 論文標題 減損スタート鉄道の末路 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 557-562 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 70 |
| 2. 論文標題 JR九州上場は鉄道解体の始まり？ | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 696-701 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 巻 70 |
| 2. 論文標題 鉄道貨物は存続可能か | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 企業会計 | 6. 最初と最後の頁 789-796 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yoshitaka Fukui |
| 2. 発表標題 Book Review Understanding Mattessich and Ijiri: A Study of Accounting Thought by Nohora Garcia |
| 3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 福井義高 |
| 2. 発表標題 操作性のある会計利益概念構築を目指して |
| 3. 学会等名 日本会計研究学会第77回大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 福井義高 |
| 2. 発表標題 情報価値、会計基準、均衡資産評価モデル |
| 3. 学会等名 TGH会計ファイナンス研究会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2024年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 著者名 福井義高 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 中央経済社 | 5. 総ページ数 208 |
| 3. 書名 たかが会計 | |

| | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 著者名 福井 義高 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 中央経済社 | 5. 総ページ数 232 |
| 3. 書名 鉄道ほとんど不要論 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|